

そらばた
空畑遺跡（第5次） その6

今回は、調査区北側の斜面で見つかった土坑(大きめの穴)から出土した土器を紹介します。

この土器(破片)は少し変わった形をしています。



横から：文様がある



上から：へこんでいる



下から：割れて剥がれたあと

割れて剥がれたあとがありますので、なにかの一部分のようです。

同じ土坑からは下のような土器の破片も出土しています。



口縁部(うつわの口の部分)の破片

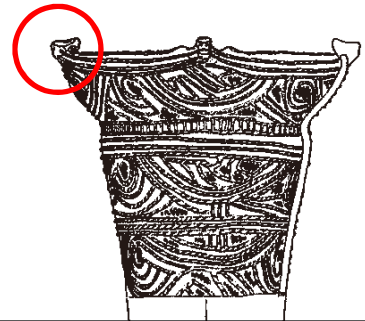
はじめに紹介した破片とこの破片とは、くっつくところはありませんでしたが、土の質や焼き具合から、同じ個体の可能性があります。

この口縁部の破片には「^{ふせんもん}浮線文」と呼ばれる、細い粘土紐を貼り付けた文様^{ひも}が施されています。このような文様は、縄文時代前期の関東地方の^{もろいそしき}諸磯式土器(諸磯b式)によくみられるものです。

空畑遺跡では、これまでの調査でも諸磯式の土器が多く出土しています。

県外の諸磯式の土器を調べてみると、右図のような飾りのついた土器があることがわかりました。

今回見つかった土器片はこのような飾りの部分かもしれません。ただし、口縁部の角度や飾りの大きさ・形など、異なる点も多くあるため、ほかにも類例を探していきたいと思います。



深鉢 塚屋遺跡（埼玉県）
出典：『総覧 縄文土器』
(株)アム・プロモーション

空畑遺跡に暮らした当時の人々の交流のようすがしのべられます。

<問い合わせ先>

〒511-0415 いなべ市北勢町東貝野454番地

三重県埋蔵文化財センター - 調査研究4課 いなべ整理所

担当者：勝山孝文、松永達也

電話番号：0594 - 72 - 8955 FAX：0594 - 72 - 8970 e-mail：maibun@pref.mie.lg.jp